

# 同友

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

# やまがた

03  
2014  
MARCH

山形県中小企業家同友会  
月刊 同友  
やまがた



講師：(株)高田自動車学校 代表取締役社長 田村 満氏



座長：齊加義三氏

室長：齋藤和彦氏

## 2014年新春交流会

ビジョンを描いて明るい未来を社員に示そう

記念講演

思いは危機を乗り越える～ビジョンを掲げ未来を語り続けて～

中小企業振興条例元年

魅力を集い、  
共に歩もう!

山形県中小企業家同友会「第30回定時総会」のご案内

## 2014年新春交流会に160名が参加

# ビジョンを描いて明るい未来を社員に示そう

2014年新春交流会が、1月23日に山形国際ホテルで行われ、会員企業はじめ金融関係など160名が参加しました。

今回は、「危機に対応できる強靱な企業づくり」「幸せな地域づくりをめざし、共に語り合い、実践し合う仲間を増やす」「会内外の経営者との交流を深めていく」の目的で開催され、記念講演・グループ討論をおし学びあいました。ゲストとして参加された方も懇親会の席で入会宣言をされ、3名の方に入会していただきました。

第1部の記念講演は、岩手同友会の(株)高田自動車学校代表取締役社長 田村満氏に、「思いは危機を乗り越える～ビジョンを掲げ未来を語り続けて～」と題して、講演をいただきました。

はじめに「幸運は準備された心に訪れる」というパストールの言葉が紹介され、経営者の覚悟を突き付けられたように、参加者の気持ちをわしづかみにしました。

昭和50年代、労働組合ができ会社は労使紛争でもめにもめ、田村氏は思いを伝えようと「事業発展計画書」を作成。以来毎年、「何のために経営しているのか」「どんな会



社にしたいのか」をめげずに語り続けてきました。

社会的に高く評価をされ、全社員とその家族にとって、ここに勤めているという誇りがもてる「小さな一流企業」にすることが田村社長の夢。まとめで、「遠きをはかる者は富み、近くをはかる者は貧す」の二宮尊徳の言葉を紹介し、経営者の仕事は社員にビジョンを描いて明るい未来を示すことだと強調しました。

グループ討論は、各々の企業の本年に取り組むべき目標と課題を出し合い、今年1年を元気に実践する決意の場となりました。

記念  
講演

## テーマ 思いは危機を乗り越える

～ビジョンを掲げ未来を語り続けて～

講師：(株)高田自動車学校 代表取締役社長 田村 満氏(岩手県中小企業家同友会 代表理事)



「幸運は準備された心に訪れる」というパストールの言葉があります。長年経営をしてきて僕が常に思っている言葉です。僕なりの解釈ですが、幸運はたくさんあるが、

心が準備されていなければキャッチできないということです。社員にも常に問題意識を持ってやっつけていこうと言っています。根底にこれがあったから今でも経営をしています。

### 労働組合との紛争

1968年、水産業に従事してきた父が、老後の仕事として自動車学校を創業しました。僕は大学を卒業し、1972年に入社しました。その途端に労働組合ができました。経営者の父は出社していませんでしたので、そこに息子が入り、俺達を締めつけたらとんでもないというわけです。父の意向で株式会社にし、3年後に僕が常務になり経営者と

なると、組合はますます強くなりました。当時、組合員は20名。2年後、専務になった僕が経営者の論理で、従業員は組合の論理で言い合い、もめにもめました。

労働組合の3万円の賃上げ要求に対し、そんなことでできないので〇〇円と返答すると、そこで決裂。ストライキを始める。ひどくなると五月雨ストでした。午前9時の教習開始5分前に「今から24時間スト」と来ます。16名の指導員がいましたが、教習が出来るのは僕ともう一人だけで生徒に迷惑をかけました。教習を終えて戻ると、「9時半にストは解除した」と言い、次の教習開始5分前にまたスト開始の繰り返しです。ストの間は賃金を払う必要はないが、9時半からの分は教習をしていなくても賃金を払わなければならない、損失をこうむりました。

社員だけの時は良かったが、「経営者は敵」という上部団体が支援し、団交に来ます。父は「お前に任せる」といなくなり、僕は上部団体の方々とその後ろに控えた従業員とやりあうわけです。僕は立場上、負けるわけにいかず、がんがんやり合いました。地方労働委員会にも何度も呼び出されました。



### 事業発展計画書の作成

僕は会社をなんとかしようと、同友会でいう経営指針書である経営理念から方針まで入った事業発展計画書をつくりました。経営理念は「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」にしました。事業発展計画書は26年前からずっとつくり続けています。

最初、「皆さんは将来この会社になくってはならない。会社はずっと発展し続けなければならない。そのことによって給与を貰える。そのためには売上が必要です。今、専務だが将来社長になる立場で、僕がどういう経営をしたいのか、どういう会社になりたいのかが分かっていないと、あなた方は働くことが難しいでしょう」と言って発表した。

ところが、彼らはそんなの関係ない。朝来て教習をして帰って、給与をもらえればいい。何のため経営するか、何のため働くのかが分からない人ばかりでした。僕が読んで目で追ってこれとお願いしましたが、組合員はページを次々めくって、いい加減でした。

それでも事業を発展させなければと思い、何度も社員に話をし、めげずにやり続けました。月次の決算書も発表しましたが、経営者なんて二重帳簿は当たり前と平気で言います。僕は商工会議所の方をお願いして出てくるものを発表し続け、彼らは「嘘ではない」と感じるようになり、僕の考えも徐々に分かり、組合も下火になっていきました。



### 我社の流れと経営理念の変更

1996年に現在の所に新築移転をしました。バイパスができて地価が上がり地主から出て行けと言われ、もめました。以前あった場所は海に近かったので、何が幸いするか分からないものです。

1997年から合宿の生徒を受け入れました。2001年に頼まれて平泉ドライビングスクールを買い、社長になりました。2003年には陸前高田の社長に就任し、2004年に赤字続きだった遠野ドライビングスクールをみんなから乞われ引き受けました。私は仕方なくの人生という感じがします。2006年には規制緩和によって建設機械などの技能講習センターを始めました。震災後、復興需要で資格の必要な方がたくさん来ています。自動車学校だけではやれない時代が来ていたので、やっていましたが、我社にも地域にも良かった。復興に尽力できました。

最初の経営理念は中国の兵法の諺で、天の時はチャンス。チャンスは地の利(立地)に勝てない。地の利は大事ですが、人の和(チームワーク)に勝てない。だからチームワークを大事にしようでした。これが、合宿免許を始めてからチームワークだけでいいのかという疑問が湧きました。

生徒さんには、茶髪やいろんなところにピアスをした方もいます。彼らに安全ということを投げかけても、安全運転を習いに来たのではなく、免許を取りに来たという意識です。我々は違います。卒業して車を運転し、事故で死んだら大変なことです。彼らの頭の片隅に安全を入れるには、あまりにもギャップがありました。

それを埋める努力をするために、我々の人格を上げて、生徒たちに影響を与えていこう。そして、出会いやめぐり会い、邂逅を大切にすべきということで、「邂逅に喜びを」に経営理念を変えました。



### 小さな一流企業をめざす

僕には「小さな一流企業にしたい」という夢があります。小さな一流企業とは社会的に高い評価をされる社内文化を持つ企業で、全社員とその家族にとって、ここに勤めているという誇りが必要です。そのためには全社員と家族の豊かな生活です。豊かな生活には、年俵が県下の同業他社、地域の同年代のサラリーマンより高くなくてはなりません。そういうものを目指す必要があります。そして、豊かな生活には、しっかりと売上をあげなければなりません。

また、我社を卒業した人達には事故を起こしてもらってはいけません。地域の人達の交通事故を減らす活動もしています。こういうことを含めて豊かな生活が成り立つと思います。こういうことをとおして、200年以上の企業に成りえると考えています。

社員の子どもが、「父ちゃん、どこに勤めているの？」と聞かれた時、「いいところに勤めていますね」「ふうーん」「あんなところに勤めているの」と、反応が大きく三つに分かれると思います。「いいところに勤めている」と言われたい気持ちがあります。さらに、もう一つ言えば、自分の子どもを入社させたい会社になりたいと思っています。



### 気仙支部設立と経営環境の悪化

陸前高田市が施行された時の人口は3万5千人。徐々に衰退し、震災直前には2万4千人になりました。岩手同友会の気仙支部は2007年に会員数28名で立ち上げ、2010年には80名になりました。2011年の震災で4名の会員が亡くなりました。みんな家族や会社を失い、僕は同友会がなくなるかとも思いましたが、現在85名の支部です。

気仙支部は宮城同友会に属している5名が支部をつくろうと準備会例会をしていましたが、人が集まらず、岩手同友会のチャーターメンバーだった僕の所へ相談に来ました。「例会が盛り上がりがないと自社に取り入れることが出来ない。例会の活性化が必要で、そのために30名の例会を連続してやろう」と言いました。

それともう一つ、経営環境です。今年の陸前高田の18歳人口は220名です。今年の0歳人口が90名で、18年後のユーザーです。これでは経営が出来ません。僕は毎年的人口データから経営環境が悪化していくと思っていましたが、一人では何も出来ません。そこで、支部をつくろうと言われ、私の話を聞いてもらいました。

中同協の赤石相談役は「地方は人口問題でダメになる。13歳も31歳も41歳も51歳も同じ人数がいれば継続できるだろう」と語っていました。18歳以降の人口減少は、進学や就職で離れることが原因です。僕もみんなも都会で経験し、ノウハウを持っているので、いい感じの仕事が出来る。僕の次男は奥さんと二人の子どもを連れて36歳で戻って来ました。「鮭が大海を泳いで生まれた川に戻るように40歳位で経験を積んで戻ってほしい。そのための受け皿である仕事をつくろう」と言いました。

2050年には日本の人口が7千万人と予想されています。「遠きをはかるものは富み、近きをはかるものは貧ず」と二宮尊徳は言っています。「遠きをはかる」のは、

経営者の仕事です。それで、彼らから受け皿づくりに賛同してもらい、一緒にやってきました。

### 3.11とそれ以降の活動

東日本大震災の時、我々は売上が全く立たないゼロからのスタートでした。僕は社員を集めて「雇用は絶対守るから」と言いました。確かな裏付けはありませんでしたが、社員にも肉親を失い、家を流された人がいました。そういう人達が解雇されたら打ちひしがれてしまいます。ただ3月の給与は一律15万円ということを平泉と遠野にもお願いしました。4月には金融機関に運転資金として借りることが出来たので、支払うことができました。そして、12月に3月分を満額支払うことができました。

当時、雇用調整助成金・訓練給付金を申請して頂いていた同友会の仲間に八木澤商店がいました。やり方が分かっていたので、同友会以外の地域の経営者も集めて、その勉強会を開き「雇用を守って欲しい」とお願いしました。同友会の人達は比較的守ってくれました。しかし、職安では経営者には「すぐ失業保険を出しますから解雇してください」、従業員にも「解雇された方がいい」と言い、泣く泣く解雇した方もいました。

経営者には、「津波が来るから逃げろ」と言って回ったが、二人の従業員を亡くした方もいます。もっとそっちまで行って、声をかけるべきだったと打ちひしがれる経営者を勇気づけながら何とかやってきました。

我社はたまたま高台にありましたので、いろいろな拠点になりました。全国の同友会の支援物資も大変助かりました。我社に集まった支援物資を同友会のメンバーとその社員達で必死に避難所を回って配りました。その時、「これは全国の中小企業家同友会から運ばれたものです」と言って渡しました。ですから地域の方々は、同友会の名前を結構憶えてくれたこともあって、会員がそんなに減らなかったのではないかと思います。

### これからの展望

今、陸前高田では防潮堤をつくり市街地を8~10mかさ上げしようとしています。ダーウィンの言葉に「最も強いもの、最も賢いものが生き残るわけではない、変化できるもの、環境に適応したものが生き残る」というのがあります。経営者は環境適応業と言われ、どんなに経営環境が悪くても経営者は何とかしなければなりま

せん。

仮設住宅に今も暮らす方々の最大の関心事は「いつ自分の家を持てるのか？」です。被災した土地を誰がいくらで買うかが固まりつつあります。我々が心配しているのは、10年かけて町をつくっても、それまで待ってくれる方がどのくらいいるかです。

それで「なつかしい未来創造(株)」を立ち上げました。仕事をつくる、出会いを増やす、良い社会資本を残すということでやっています。将来的に地域の資源を生かしながら社会の今日的課題を抑え、将来的に約500名の雇用を創出する。株式会社は存続しなければなりません。我々はいろんな企業をつくり、それを事業化し10年で800名の会員にしようとして立ち上げました。それを具現化しようというのが、箱根山テラス事業です。集う・起業する・学ぶ・宿泊する。それと、陸前高田ではエネルギー問題が大切なのにテーブルに挙がっていません。我々がモデルを示そうと、これは自然エネルギーで賄えるようにつくっていかうとしています。

一昨年のBBC放送の世論調査では世界によい影響を与える国の1位が日本と報道していました。ダライラマは、「日本は西洋の科学技術を取り入れ、経済大国になりながらも西洋のように自然に敵対するのではなく、自然を敬い、自然と共に暮らし、周りの人と助け合いながら生きてきた。この日本人の調和の精神・文化こそが、混乱と不安に満ちた今の世界に必要な」と言っています。防潮堤を三陸の北から南までつくと8千億円かかります。敵対するのではないと、ダライラマは言っています。

経営者はビジョンを掲げないといけません。そして、ビジョンを絵等にし、社員達にしっかり示さなければなりません。「遠きをはかるものは富み」ですから、それを社員達に語り、一緒にやっつけていかなければなりません。

(文責:事務局)



# 山形県中小企業家同友会 「第30回定時総会」のご案内

2014年度  
スローガン

**そうだ、経営を楽しもう。  
だから、本気で向きあおう。**

山形県中小企業家同友会「第30回定時総会」の開催要項が、決まりましたのでお知らせいたします。第30回定時総会は、下記の目的で開かれます。

- ①前年度の同友会運動の総合的なまとめを行い、会員企業と同友会がさらに発展するための新年度方針を決めるとともに、より積極的な活動を進めていくための役員を選出します。
- ②体系化された学べる組織づくりにより三つの目的を実践し、全社一丸で刻々と変化する経営環境に適應できる21世紀型の強靱な企業づくりを目指します。
- ③元気な企業、明るい地域の未来のための、あらたな同友会づくり、あらたな同友会運動を、かかわるみんなで共有します。

記念講演の講師は、業務用缶のキャップや持ち手などの部品を製造している(株)ヒロハマ 広浜泰久会長(中同協 幹事長)です。人を生かす経営の実践で、市場が縮小する中、シェアを伸ばし、業界ナンバー1となった経営体験から学び合います。

新年度のスタートです。企業と同友会がさらに発展するため、共に学び合いましょう。

日時

**2014年4月22日(火)** 受付:午後1時 午後1時30分開会

会場

**ホテルメトロポリタン山形 4F霞城**  
山形市香澄町1-1-1 電話 023-628-111

参加費

**総会:無料**  
**記念講演:1,000円 懇親パーティー:5,000円**

第1部 定時総会 13:30~14:45

第2部 記念講演 14:55~16:40

**「経営者の責任の自覚」から始まった「人を生かす経営」**  
～科学性、社会性、人間性を追求する大切さ～

講師: (株)ヒロハマ 会長 **広浜泰久氏** (中同協 幹事長)

グループ討論 16:50~18:40

第3部 懇親パーティー 19:00~20:30

# 第10回理事会報告

◆日時:2014年2月12日(水)16:00~17:45 ◆会場:同友会事務局

◆出席:阿部(秀)、伊藤(尚)、越前屋、及川、後藤、齋藤、佐藤(一)、佐藤(卓)、佐藤(弘)、島貫、白鳥、菅原、玉津、長澤、松田、若木、川合 ◆事務局:伊藤、矢作、高橋

松田代表理事が議長をつとめ、開会のあいさつをいただき、下記の議事をすすめました。

## ■報告事項

- 1)2014年新春交流会の件(佐藤理事)最終実行委員会でまとめをし、3月理事会で報告する。
- 2)中同協4委員会合同研修・委員会の報告(1/30)
- 3)消費税率引き上げにかかわる勉強会の案内(3/5)と参加要請(松田代表理事)
- 4)2014年1月 月次決算報告(伊藤事務局長)
- 5)第19期経営指針をつくる会について(菅原理事)

## ■承認事項(入・退会承認) 6名入会3名退会 2/12現在 410名

## ■討議事項

### 議題1:第30回定時総会議案書起草の件

松田代表理事より、2014年度スローガン、重点方針が提案され、承認された。

スローガン そうだ、経営を楽しもう。だから、本気で向きあおう。

#### 重点方針

- ①時代に適応し、人を生かし、経営を楽しもう(企業づくり)
- ②あてにされる同友会になろう(同友会づくり)
- ③産学官金農の連携を強化し、地域を活性化するリーダーになろう(地域づくり)
- 2)2014年度議案書(第1次案)起草について、①2013年度活動のまとめ、②2014年度方針(案)の骨子案の説明と、委員会・部会の活動について各部門から、方針の説明があった。

#### <決定事項>

- ①政策委員会名称変更の提案があり、委員会の活動をわかりやすくするために、「地域活性委員会」に決定。
- ②スローガン、重点方針の決定を受けて、支部・委員会・部会、の方針・計画に盛り込むことになった。
- ③2014年度組織目標は、500名に決定。
- ④川合相談役より 2/20(木)10:00~ 労働局より懇談の申し入れがあったことが提案され、懇談会の開催を決定した。

### 議題2:同友会会費の値上げの件

松田代表理事より、消費税増税対応や山形同友会は過去に一度も値上げをしたことがないことから、会費値上げと値上げ後の会員サービスの向上も含めて提案があった。

次年度一年間検討し、来年1月~2月の理事会で値上げについてどうするかを決めることとなった。

### 議題3:第30回定時総会開催要項(案)の件

実行委員長の後藤理事より、開催要項、開催目的、予算(案)について提案があり承認された。

- 1)開催日時:2014年4月22日(火)13:30~20:30

会場:ホテルメトロポリタン山形

記念講演:(株)ヒロハマ 会長 広浜泰久氏(中同協 幹事長)

## 2)開催目的

- ①前年度の同友会運動の総合的なまとめを行い、会員企業と同友会がさらに発展するための新年度方針を決めるとともに、より積極的な活動を進めていくための役員を選出します。
- ②体系化された学べる組織づくりにより三つの目的を実施し、全社一丸で刻々と変化する経営環境に適應できる、21世紀型の強靱な企業づくりを目指します。
- ③元気な企業、明るい地域の未来のための、あらたな同友会づくり、あらたな同友会運動を、かかわるみんなで共有します。

## 議題4:役員選考委員会について

松田代表理事より、役員選考委員の選出の提案があり、下記の6名を承認した。

常任理事:松田代表理事、山形支部:金田史生氏、寒河江支部:佐藤弘康氏、さくらんぼ支部:伊藤和憲氏、置賜支部:佐藤松雄氏 庄内支部:菅原 司氏  
役員公募期間:2月13日(木)~24日(月)を確認した。

## 議題5:事務局就業規則(改正案)の件

松田代表理事より提案があり、承認された。

## 議題6:会員増強の件

松田代表理事より、中村副代表理事からのお願いで、計画の460名目標達成に向けて、今年度、残り少ないが、1社でも入会できるようにとの増強活動の協力依頼があった。

## ■その他

- 1)第2回東日本大震災復興シンポジウムについて

日時:3月5日(水)13:00~20:00 ※3/6オプション有  
会場:メトロポリタン盛岡ニューウイング(岩手県)

- 2)次回理事会

日時:3月12日(水)16:00~18:00

会場:同友会事務局

#### 議題:①議案書案について

②予算(案)について

③役員(案)について

④北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会の件

⑤その他

## ■閉会挨拶(川合相談役)

大変慎重審議ありがとうございました。どんでん発言し、他の考え方も理解するということが大事です。社内でも社長の考え方に対し、社員の受け止め方はそれぞれです。それを受け止めながら言い続けることが大事です。是非、意見を出し合って納得して同友会を進めることが大事だと思います。

## 新会員紹介

### ◎東 達也氏

社会保険労務士法人  
西塔事務所  
業種 社会保険労務士業  
山形支部

### ◎高橋 賢一氏

TECH GARAGE 代表  
業種 中古車販売業  
山形支部

### ◎小松 久敏氏

(株)コマツプランニング  
業種 ビジネスホテル業  
山形支部

### ◎齋藤 潤氏

夢屋台 ゆりあ 代表  
業種 飲食業  
山形支部

### ◎米田 真也氏

(有)よねき 専務取締役  
業種 介護サービス事業  
山形支部

### ◎金子 修氏

(株)金子設計工房 代表取締役  
業種 建築設計事務所  
山形支部

## 支部・会員名・企業名・役職変更

- (有)寒河江衛生管理センター(寒河江支部) 設楽剛史氏  
⇒常務取締役 に変更
- グリーンメタル(株)(庄内支部) 取締役 菅原 剛氏  
⇒代表取締役 に変更

## From Editor

★第19期経営指針をつくる会が2月22日から始まりました。山形同友会で成文化運動がスタートしたのが1996年。講師に宮城同友会の2名の役員と故若松事務局長を迎え山辺町玉虫湖畔荘での単発のセミナーでした。約30名が参加し、完成させたいという有志が集まり、手弁当で深い関わりを持ちながら11ヵ月かけて完成。翌年に委員会を立ち上げ本腰をいれた運動へと発展していきます。★開講日に必ず「経営指針をつくる会の目的を精神」の読み合わせをします。これを作成された若松事務局長の了解をもらい活用させていただいています。つくる会が修了する度に振り返り、目的・基本精神を成文化したといいます。サブタイトルに、「学ぶとは誠実を胸に刻むこと、教えるとは共に希望を語る」とフランスの詩人ルイ・アラゴンの詩「ストラスブール大学の歌」の一部が引用されてい

ます。★原詩は「教えるとは・・・」から始まるのですが、「学ぶとは・・・」を最初にしようと提案されたのが、今回講師をお願いした宮城同友会の原田相談役だといいます。誠実を胸に刻むとはどういうことなのかを考えながら、第一講の原田相談役の講義を聞き取りました。これを除いたら自社(自分)でなくなるものは何か。同友会からなくてはならないものが「労使見解」であり、「労使見解」は経営そのものだといいます。すでに事業承継された原田相談役が、「経営は駅伝であり、バトンを渡すこと。我社のバトンは「労使見解」です」と言い切ったことが衝撃でした。★受講生9名中8名が後継者。はじめて同友会理念に触れる方も多いたのですが、関わる私たちも同友会の大先輩からバトンを受け取ったことを自覚し、得た知識をかみしめ、謙虚に誠実に学んでいきたいものです。(由)

# 3月支部 例会のご案内

- ・どの支部の例会にも参加できます。
- ・月に一度は参加しましょう。



## 置賜支部

デザイン業をとおして地域の活性化とは

2014.3.18 (火) 18:30～

場所：伝国の杜

米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者：ジーエスデザイン(株) 代表取締役 福崎真知子氏

創業以来、デザインをとおしてお客様が求めている希望を形にすることをめざしてきました。いろいろな方と会い、情報交換をして25年。その経験と実績から一つひとつの仕事をお客様のために、地域のためにつなげています。米沢で生活する学生と地域を結ぶコミュニティ誌「ざわわ」の発行、ご当地ヒーロー「アズマンジャー」、「おきたま食の応援団」など、たくさんの方の仕事を手がけ、地域を発信しています。「your happiness is my happiness あなたの幸せが私の幸せ」を信条に、ヒューマンコミュニケーションのツールとして、デザインの付加価値を追求する福崎社長の実践報告をもとに「付加価値」について考え合います。お誘い合わせの上、ご参加ください。



## 寒河江支部

30年後の店づくりのために

～人・ひと・ヒト～

2014.3.17 (月) 19:00～

場所：寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：FoodBarび～しゃいん 代表 松田光浩氏

30年後、68歳になっても現役として店に立って働きたい!そんな夢を語る松田代表。飲食店を経営したい!という夢を追いかけて努力の末にオープンした自分のお店。人と繋がり、人を裏切らず、人を信用してきたからこそ今の自分がある。難しい経営学や数字も大切だけど、夢に向かって進む浪漫を何よりも大切にしたい。同友会に入会するもまだ一度も例会に出席した事のない松田代表が、初めて例会に出席します。それも報告者として!これから更に激しくなる社会の荒波を乗り越えて、自分が理想とするお店を創るために、人前で話すのが苦手という松田氏が想いを言葉にし、皆様にお話しします。

今までの艱難辛苦を!「人」の大切さを!30年後の夢を!



## 庄内支部

感謝と学びのチカラで「しあわせ」をつくる

～運ばせない運送業 創業社長の挑戦～

2014.3.20 (木) 18:30～

場所：酒田勤労者福祉センター

酒田市緑町19-10 ☎0234-26-2644

報告者：(株)ティスコ運輸 代表取締役 菅原茂秋氏

少年自衛官から運送業界に入り、2000年に創業。指針作成の現状認識から「本当に地域に必要な会社になっているのか?」に疑問を持ち、社員や地域の満足向上の必要性を痛感します。そして業界の常識にとらわれると大手との差別化が難しいために、独自の手法を展開し、本当の顧客満足を追求することで本業を拡大するとともに、隣接異業種への進出を進めました。「自社の雇用を守り、地域を守る企業に発展していく」というビジョンを、社員と共に目指す取り組みを報告します。



## さくらんぼ支部

社員の心を一つに、良い社風を作る

～従業員満足度調査の項目から～

2014.3.26 (水) 18:30～

場所：さくらんぼタクトルセンター

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：(株)アイ・タックル 社長 水沢正志氏

3年前から従業員満足度調査を実施しながら社内改革に取組んでいる。地域から必要とされる良い社風をつくるために、学ぶ習慣作り(研修会、社内木鶏会)や全面禁煙などの取り組みを行った。また、第一、第三土曜日を研修日にしたことにより、休日は減ったがそれでも満足度は上がっている。これは、物事に前向きに取組む良い社風が醸成されつつあるのでは?と、「少しずつではあるが手ごたえを感じている」と語る水沢社長の報告に学び合います。



## 山形支部

同友会って本当に役に立っていますか?

～経営品質を向上させるために～

2014.3.25 (火) 18:30～

場所：山形テルサ 研修室A

山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

3月の山形支部例会は、今年度1年間の活動成果と課題を出し合いたいと思います。

支部幹事の報告をもとに山形支部にとって何が大切か、「同友会の活かし方」、「自社の姿を従業員や顧客、取引先にどう写ってほしいか」などを皆さんと共に考えてみます。

消費税増税等で外部環境が厳しくなる中、来期以降の支部活動がより企業発展へ繋げられるように、皆様からの更なるご理解へのひとときになりますよう、関係者一同準備を進めています。

特に今回はグループ討論後の発表をなくし、紙ベースでまとめる予定です。どうぞお気軽にご参加ください。

同友やまがた3月号(2014年3月1日発行/通巻252号)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:[info@yamagata-doyu.jp](mailto:info@yamagata-doyu.jp)